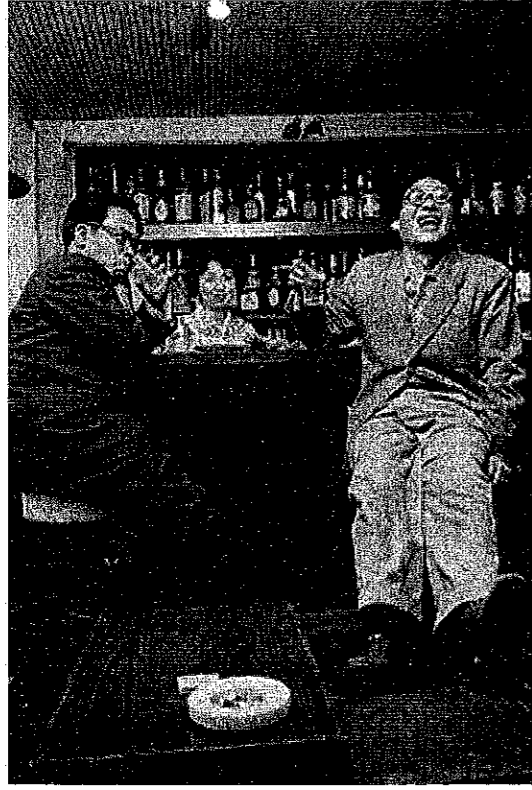


分室特別展

とき かお  
田沼武能肖像写真展 時代を刻んだ貌

2月23日(木) ~ 4月9日(日)



横一雄と松本清張 1958年撮影

今年度最後の展覧会は写真家・田沼武能<sup>たけよし</sup>さんの肖像写真展です。田沼さんが撮影した、練馬区にゆかりのある作家の写真20点をご紹介します。

田沼さんは1929年生まれで、現在もご活躍中の写真家です。東京市浅草区山谷1丁目1番地1号(現・東京都台東区)にあった実家「田沼写真館」で、小さいころから写真に囲まれて育ちました。

東京写真工業専門学校(現・東京工芸大学)卒業後、サンニエースフォトス社で報道写真の仕事をする傍らで、写真家・木村伊兵衛(1901~1974)の助手をつとめ、写真家の原型となる要素を身につけていきました。「芸術新潮」など複数の雑誌の撮影を抱え、一日数時間しか眠れない多忙な時期を経たのち、独自の写真世界を見出していくこととなります。

「人間のドラマを見つめること」をテーマに活動を繰り広げた田沼さんは、これまでにたくさんの方の撮影をしてきました。今回の展覧会でご紹介するのは練馬区にゆかりのある作家ですが、大人だけでなく子どもたちの姿も国内外問わず撮影しており、世界100か国以上を訪れ、現地の人々の姿を写真におさめています。どのような場面においても、人間との出会い、現代に生きるひとりひとりの人間のドラマを大事にしてみました。

ドイツの哲学者・ショーペンハウエルの「すべての人間は、他人の中に鏡を持っている」という言葉をたびたび引用する田沼さん。世界中の人間のドラマを見つめ写真におさめると同時に、彼らを撮影することで写真家である自身の姿を見つめていたのかもしれない。

本展は練馬区立美術館との同時開催となります。練馬区立美術館では、森光子や野見山皓治、三島由紀夫など著名な文化人の肖像写真を幅広くご紹介いたします。あわせてご覧いただければと思います。

1日お2日 イベント情報

日付	時間	イベント名	場所	講師等	定員	対象	費用	申込
1/11(水) ~ 1/22(日)	9:00~18:00	「柳生家ゆかりの刀剣展示」 尾張柳生家から五味康祐に贈られた刀剣(脇指)を展示します。	石神井公園ふるさと文化館分室	-	なし	どなたでも	無料	なし
1/14(土)	14:00~14:40	「柳生もの系譜」展示解説 担当学芸員による分室コレクション展の解説です。	石神井公園ふるさと文化館分室	解説：当学芸員	なし	どなたでも	無料	なし
1/15(日)	14:00~15:30	講座「和」を学ぶシリーズ第4回 「柳生新陰流とは(講演と演武)」	石神井公園ふるさと文化館管理棟内多目的室	講師：柳生耕一 (柳生新陰流第二十二世系頭)	100人	中学生以上	無料	受付終了
1/21(土)	14:00~15:00	絵本とあそぶ会 区立南田図書館職員によるおはなし会です。	石神井公園の風文化館管理棟内和室	上演：南田図書館職員	30人	幼児~小学生	無料	なし
1/22(日)	14:00~15:30	文化講演会 「はじめての建築鑑賞—建物、街をみて楽しむ」	石神井公園の風文化館管理棟内多目的室	講師：米山勇 (建築史家、江戸東京博物館館長研究員)	100人	中学生以上	無料	1/11(水)が切 ★1
1/28(土)	A回13:30~15:00 B回15:30~17:00	レコードコンサート 五味康祐遺品のオーディオによるコンサートです。	石神井公園ふるさと文化館分室	解説：福田弥 (慶応義塾大学 准教授/武蔵野美術大学 講師)	各回20人	中学生以上	500円 当日払い	1/14(土)が切 ★2
2/4(土)	14:00~14:40	「柳生もの系譜」展示解説 担当学芸員による分室コレクション展の解説です。	石神井公園ふるさと文化館分室	解説：当学芸員	なし	どなたでも	無料	なし
2/12(日)	14:00~15:30	講座「和」を学ぶシリーズ第5回 「親子いけばな」	石神井公園の風文化館管理棟内多目的室	講師：石本弘園 (練馬区立練馬東部児童館指導員)	15組 (1組3名まで)	小学生~中学生を含む親子	1組700円 当日払い	1/28(土)が切 ★3
2/25(土)	A回13:30~15:00 B回15:30~17:00	レコードコンサート 五味康祐遺品のオーディオによるコンサートです。	石神井公園ふるさと文化館分室	解説：当オーディオ担当職員	各回20人	中学生以上	300円 当日払い	2/10(金)が切 ★4

★の申込方法については石神井公園ふるさと文化館HPをご覧ください。  
(http://www.nenbun.or.jp/furusato.html)

♪毎週火・木曜日、2階五味康祐オーディオ展示室にて音出しメンテナンス実施中！ご自由に試聴いただけます。

# 「柳生家ゆかりの寺を訪ねる」

## 「広徳寺 知られざる名刹」

2月12日まで開催中の展覧会『柳生もの』の系譜—時代小説「のいざない」のイベントとして、知られざる練馬区の名刹・広徳寺の特別拝観を行いました。

そもそも柳生と練馬とどんな関係が？と思われるかもしれませんが、江戸時代の柳生一族の剣豪たちが眠っているのが、桜台にある広徳寺なのです。

そこで、普段は拝観謝絶の広徳寺のご住職や、柳生家ご宗家のご協力をいただき、特別に見学をさせていただきました。2回実施、1回あたり20名のところ、93名のご応募を抽選し、各回25名、練馬文化センターでの説明会ののち、いざ広徳寺へ。

もともと古くから上野・下谷にあった、各大家家を檀家を持つ大寺院。関東大震災で被害を蒙り、練馬の地に移りました。大名家ゆかりの古い大建築や、移転の際に柳生家の墓所から発掘された貴重な副葬品も拝見。



広徳寺の竹林

その後、紅葉も美しい墓苑に移り、柳生宗矩、十兵衛三蔵、宗冬、宗在公の墓所に参拝。

いかにも剣豪らしい、江戸初期の五輪塔でした。

「練馬区にこんな美しい、歴史的な遺構があったとは」との感嘆の声しきり。なかには「十兵衛さんが大好きなんです」と、うるむまなざしの方も。

通常は「拝観謝絶」。個人所有の墓所や、貴重な遺産がいつまでも残りますようにと思いつつ、その門を後にしました。

写真も非公開なので、鬱蒼とした竹林の写真だけ掲載します。

# 公園の四季

## 夕焼け

見事な紅葉を見せた公園の樹木たちも、越冬の身支度を整えすっかり冬景色となりました。夕暮れ時は真っ赤な太陽が公園の林の中へ沈んでいく。空気が澄んだ冬ならではの夕焼けは1年の中で最も美しく、何とも幻想的でうっとりさせます。

ぜひ公園へ散歩にいらしたとき、または電線のない園内で凧揚げなど楽しんだ後は、夕暮れ時のみ顔をのぞかせる富士山や夕日を堪能してみてください！より一層公園が好きになってしまってください！



石神井松の風文化公園管理棟2Fからの撮影

### 次回・コレクション展

## 「作家と食べもの」(仮)

平成29年4月15日(土)～7月8日(土)

料理上手と言われる作家、各地の美味を追求した作家。

練馬区ゆかりの檀一雄、草野心平など、料理の世界とは切っても切れない作家をとりあげ、その独特の食べものとのつながりをご紹介します。思い出の食べ物、楽しいレシピなど、お楽しみください。

さて、クイズです。詩人・草野心平命名の「白夜」「黒と緑」とは一体どんな料理でしょうか？

答 白夜：牛乳を使ったスープ。  
黒と緑：ほうれん草のおひたしを梅醬で煮いたもの。

### 【発行・お問い合わせ】

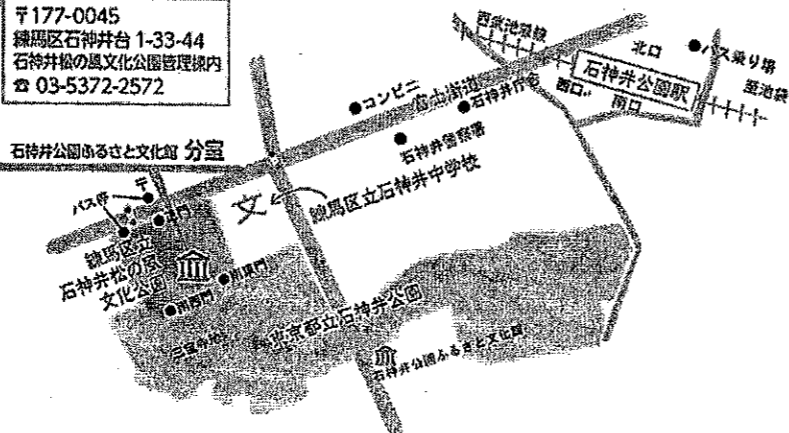
練馬区立 石神井公園  
ふるさと文化館 分室  
公益財団法人練馬区文化振興協会  
〒177-0045 練馬区石神井台1-33-44 石神井松の風文化公園管理棟内  
Tel:03-5372-2572 Fax:050-3352-2983

### アクセス

- ◆西武池袋線石神井公園駅(東京メトロ有楽町線、副都心線直通有)
  - ・西口から徒歩15分(富士街道沿い)
  - ・北口から西武バス「吉祥寺駅行き」約5分、「石神井郵便局」下車徒歩約1分
- ◆西武新宿線上石神井駅
  - ・北口から西武バス「成増町行き」約10分、「石神井郵便局」下車徒歩約1分

〒177-0045  
練馬区石神井台1-33-44  
石神井松の風文化公園管理棟内  
☎03-5372-2572

石神井公園ふるさと文化館 分室



### 今月の作品

#### 栗津則雄

『自画像の魅力と謎—自己を見つめた11人の画家たち』

NHKライブラリー 2001年

1面に掲載の「肖像写真」の世界はカメラマンが他人を撮影しますが、この本は画家が自己を見つめて描いた「自画像」へのいざないです。青木繁、岸田劉生、佐伯祐三などの近代洋画の作家と作品を通して、その芸術へのひたむきさ、心の葛藤やドラマをさぐる、非常に興味深い本です。自画像に作者のすべてがあり、自画像は今も、見る人を見つめ返す永遠の命を持っているように思えます。著者は練馬区在住のフランス文学者・美術評論家・文芸評論家です。

## 五味オーディオ通信

### アンプの話

五味さんのオーディオ遺産のなかには、まだ修復ができていない機器が多くあります。今回は、そのなかでアンプについてのお話です。

オーディオ・ブームの全盛期(1960年代から1970年代)に、マッキントッシュ社と性能、人気を二分するメーカー、マランツ社があり、高性能のアンプを製造していました。五味さんは最終的にはマッキントッシュ社のプリ・アンプC22と、メイン・アンプMC275のペアで音楽を楽しみましたが、マッキントッシュに落ち着くまでは、マランツ社のアンプも使われていました。五味さんの書かれたエッセイ(「西方の音」「オーディオ巡礼」など)を読むと、五味さんが愛してやまなかったスピーカー、タンノイ・オートグラフを鳴らすのに、どのアンプが良いか、



アンプ

悩まれたことを読み取ることができます。

そのマランツ社のメイン・アンプ「Model 8B」が遺産のなかにもあり、これまで修復ができていなかったのですが、先日、協力者のお一人に見ていただき、少しの部品を交換するだけで、使用ができるようになりました。

マッキントッシュのプリ・アンプと組み合わせると、マッキントッシュのメイン・アンプとの組み合わせとは一味違った音でオートグラフが鳴ります。どちらが良いかの判断はなかなかつけ難い音で、ときどきは組み合わせを変えて鳴らしていこうと考えています。

五味さんはアンプをいろいろと試して、最終的にはマッキントッシュを選ばれましたが、マランツにも捨てがたいところがあって残しておかれたのだと思いました。

五味康祐オーディオ展示室では、毎週火曜日と木曜日に、音を出してあげることによるメンテナンスを行っています。LPレコードやCDで音楽などをかけています。どなたでも自由に入室ができますので、一度お聴きになっていただければと思います。